

令和2年度自己評価結果

社会福祉法人 和愛福祉会
わかかこども園

1, 本園の教育・保育目標

【教育・保育理念】

生きる力の基礎を培い、豊かな心を育てます。

【教育・保育方針】

発達過程に応じた教育・保育

☆一人一人の子どもに寄り添い、その子らしさを大切にします。

☆一人一人の発達や個性に応じて、教育・保育を進めます。

子どもが主体・自己を発揮できる教育・保育

☆自発的、意欲的に関われる環境を構成し、子どもが自ら選ぶことで、子どもが持っている力を伸ばしていきます。

☆生活や遊びの中で、子どもたちが生き生きと活動することにより、学びが生まれ、生きる力を高めていきます。

専門性を有する職員による教育・保育

☆「和顔愛語」の精神で、和やかな心情と愛情豊かな言葉をもって接します。

家庭・地域との連携

☆保護者や地域の方々と一緒に輪になって、共に子育てをしていきます。

☆子どもたちの成長をともに喜び合える、地域に根差したこども園を目指します。

2, 年齢別教育・保育目標

【0歳児】

清潔で安全な環境の中で安心して個々の生活リズムを整えながらゆったりと過ごす。

【1歳児】

自分の思いを十分に受けとめてもらい、安定した情緒の中で安心して過ごす。

【2歳児】

保育教諭との安定した関わりの中で、基本的な生活習慣を身につけ、友だちと一緒に遊ぶ楽しさを知る。

【3歳児】

保育教諭や友だちと遊ぶ中で、自分の思いを言葉や行動で表現し、かかわることを楽しむ。

【4歳児】

自分でできる事に意欲や喜びを持ちながら、身近な人とのかかわりを深めていく。

【5歳児】

友だちと協力したり、考えたりしながら様々なことに挑戦し、知識・能力・自信を獲得していく。

3. 評価項目の取り組み状況

| 評価項目 | 自己評価 | 取り組み状況 |
|------------------|------|---|
| 1. 園の基本姿勢について | ○ | <p>令和2年度は新規採用職員が多かったためか、1回目の自己チェックで、認定こども園としての社会的責任の理解はしているものの、教育・保育理念や目標の理解や職員としての心構えについて、努力が必要とする者が多かったので、職種、年齢層のグループに分けて話す機会を設け、理解できるようにした。</p> |
| 2. 教育・保育の内容及び目標 | ○ | <p>施設数が増えたことで、ベテランや中堅の職員が分散したこと、新卒者を含め新規採用の職員が多かったことでチームワーク作りはかなり時間がかかってしまった。それでも良く子どもたちの日々の成長を丁寧に見ていった。子ども同士の気持ちの交流に感動し、乳児期の友だちのかかわりやつながりの芽生えを実感した。幼児期の子どもたちは、行事ごとの節目で成長していく姿が多く見られるため、コロナ禍で多くのことが制限される中ではあったが、安心した園生活を送る中で、自分の気持ちを周りの大人やクラスの友だちに受け止めてもらい、自己肯定感を土台に意欲的に活動する姿を極力無くさないように心がけた。</p> |
| 3. 健康及び安全 | ◎ | <p>多様な食物アレルギーに対応する中、ヒヤリとする場面を無くすため、給食室側と保育側の双方が互いにチェックすることで改善をすすめている。毎月給食会議を開き保育現場との意見を交流し、メニューの改善要請も行った。</p> <p>新型コロナウイルス感染症一色の一年だったが、過度に園児の日常を制限することなく、感染症対策の基本に立ち返り、健全な生活を送ることに主眼を置いた。</p> |
| 4. 子育ての支援・地域との連携 | ◎ | <p>園だよりに加えてクラスだよりを発行し、子どもの姿やその月に取り組む全体的な保育内容を伝えている。さらにイベント的な活動の様子をホームページのブログにあげている。</p> <p>保育参加（保育教諭体験）では、保護者がわが子だけではなく、クラスの子どもたちを温かく見守り共感する気持ちが、行事後のアンケートで綴られ</p> |

| | | |
|-------------|---|--|
| | | た。 今年度は、地域の活動や行事がすべて中止となり、地域と連携する活動は出来なかった。 |
| 5. 園独自の取り組み | ○ | 「和顔愛語」を実践出来ているか、と自らの意思で企画立案したり意見を言ったりすることが出来ているかという2点を評価した。どちらも概ね出来ているという自己評価であった。 |

4. 今後取り組むべき課題

| 課 題 | 具体的な取り組み方法 |
|-----------------------------------|--|
| 幼保連携型認定こども園としての教育・保育の推進及び教職員の資質向上 | <p>保育園から移行して1年目で、まだ意識が変わっていないことが多くあるため、園内園外を問わず研修の受講を重ねていく。</p> <p>中堅職員の多くが、結婚出産時期を迎え育児休業中となり、ベテランの職員も各施設に分散した。若手職員の学びの場を増やすため、何が知りたいか、学んでみたいかという調査をして職員会議等の場で、実習する機会を設ける。</p> <p>研修が、集合からパソコンなどを使ったりモート研修にシフトしているため、機材などを揃えて環境を整える。</p> |

◎…十分理解できている（十分出来ている）

○…理解している（出来ている）

▲…ふつう

×…努力が必要（出来ていない）

以上の通り報告します。

令和3年3月31日
幼保連携型認定こども園
わかかこども園